

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	上智大学
-------	------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	目的は概ね実現された。
(コメント) 拠点大学の国際化については、本事業の要となる戦略や施策の企画・立案・調整機能を担う「グローバル化推進本部」を刷新した上で理事会直下に改組するなど、学長のリーダーシップの下、全学が一体となった体制を構築し、構想の具体化に向けた取組が迅速に進んでいる。 英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、既に取り組んでいる国際教養学部に加え、理工学部において積極的に推進され、グリーンサイエンスコース、グリーンエンジニアリングコースの開設や、優秀な教員の確保に加え、米国2大学との3～4週間の海外短期研修の実施等を行っているため、今後の取組の拡大を期待する。 留学生受入のための環境整備については、留学生向け宿舍の整備、留学生支援ネットワークの構築、経済的支援の充実等が進んでいる。 目標の達成状況については、大学間交流協定等に基づく交換留学における派遣学生数が目標を下回っているものの、留学生数が平成21年度末実績から倍増し、外国人教員比率も全教員の15%を上回るなど、概ね目標を達成しており、組織的な取組の成果が出ている。 今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、平成25年に公表した中長期計画「グランド・レイアウト2.0」における「世界を繋ぐ叡智（ソフィア）の醸成」「グローバル・キャンパスの創成」「世界に並び立つ教育研究を支援するガバナンス改革」という3つのグローバル化方策が着実に推進することを期待する。また、これまでの実績を基に更に先進的な取組を進め、我が国の国際大学のレファレンスモデルとして発展することが望まれる。	